

水運の歴史を奏でる資料館 /伏見みなと広場

京都

みすこうもん —三栖閘門資料館—

“三栖閘門資料館／伏見みなと広場”は、水運の歴史を学べる施設です。
平成14年度に開館して以来、520,000人以上の方が来館。
毎年、平均35,000人以上の方が訪れています。

大正7年に始まった淀川改修増補工事により、
伏見港と宇治川との船の通航ができなくなったことから
昭和4年3月31日、宇治川と濠川との合流点に三栖閘門が誕生しました。

完成した年には、早くも2万隻以上もの船が閘門を通航し
京都～大阪間の輸送に重要な役割を果たし、経済・文化の発展に大きく貢献しましたが、
貨物船輸送の減少や天ヶ瀬ダムの完成を背景に70年で歴史に幕を下しました。

歴史を見守り続けた三栖閘門。
現在みなと広場となり水運の歴史や文化を語り継ぐ資料館、緑あふれる憩いの水辺空間として
多くの人たちに利用されています。

閉館時間及び休館日のお問合せは
次のところまで。

上流域流域センター
(伏見出張所構内)

TEL 075-611-2246

詳細は、ホームページでも確認できます。

<http://www.misu-museum.jp/>



三栖閘門の仕組みが一目で分かる



完成当時の三栖閘門
(昭和4年)



平成23年度第6回 We Love Fushimi写真コンテスト
国土交通省淀川河川事務所所長賞 「落日」



三栖閘門資料館で賑わいた港町伏見、水運の歴史を学ぶ



インフラ
ツーリズム